

店の「売り」逸品創出へ

宇都宮オリオン通り商店街振興組合

事業展開、まず店舗診断

課題改善に向け勉強会

【宇都宮】市中心部のオリオン通りアーケード屋根改修の今春完工に合わせ、宇都宮オリオン通り商店街振興組合（67人）は組合員店舗の「売り」を際立たせる「一店逸品事業」に乗り出した。第1弾として中小企業診断士による「店舗診断」を実施した。今後、専門家の意見を踏まえ、2年後をめどに「オリオン通り商店街逸品」の集約を目指す。

（伊沢真一）

市中心部は空き店舗が目立つなど厳しい環境に置かれている。活性化が求められている中、同組合はアーケードの屋根改修というハード事業とともに、集客力アップのためソフト事業も展開する。

店舗診断は、国の中小企業向け専門家派遣制度を活用し、宇都宮商工会議所が支援して行われた。中小企業診断協会県支部のメンバーが診断を希望した10店舗を1、2月に訪問し診断した。10店舗は靴店、飲食店、呉服店、薬局、生花店など。

現状について診断士は「商品のアピール力が弱い」「専門店としての個性・こだわりがほしい」「県内の宇都宮以外の市に比べ恵まれた環境の中、危機感が少ない」「サービスなどの付加価値も考えなくてはならない」などと指摘した。

同組合は今後、これらの課題を改善し、逸品創出に向け売れ筋や一押しの商品を強調するための勉強会を開く。目標数は設定しなが、組合員らが話し合っって商店街として納得できる逸品を、中長期的にそろえていく方針。

入江操理事長は「お客さまに購入後の商品

の使い方をアドバイスしたり、店主がコミュニケーションを深めたりしながら、店の良さをアピールしていきたい」と話す。会議所の担当者は「オリオン通りの活性化には、商店街と個別店の組織的な取り組みが必要」と強調する。

昨秋着工したアーケードの改修は老朽化に伴う20年ぶりの張り替えて、近く終了する。場所は東武宇都宮百貨店から釜川までの西側約250㍍。4月上旬に完成式典を予定する。

アーケードの屋根改修が進むオリオン通り

